様式１

令和６年度　学校評価報告書１　（　計画段階　・　実施段階　）

いずれかを〇で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校
学校長	ふりがな	ふくおか　てつろう
	氏　　名	福岡　哲朗
校長本校在校年数		２　年
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	よしづみ　まさたか
	氏　　名	吉積　正孝

学校経営方針・学校教育方針

【教育方針】
校訓「質実剛健」の精神を継承し、全教職員の参画と実践を通して生徒に自信と気づきを与え、自らの手で未来を切り拓ける工業高校生徒の育成を目指す。

【教育目標】
（１）校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだが健やかで、強くたくましい生徒を育成する。
（２）「安全第一」を重視し、工業教育で育つ「ものづくりの心」の上に専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。
（３）人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切にして、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。
（４）礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に勤しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。
（５）進路実現（進路保障）をメインテーマとし、学校スローガン「Challenge博工」のもと、ものづくり・資格取得・部活動を活性化することで、生徒を磨く。

今年度の重点目標

合い言葉　：「 魅力ある工業高校として尖る 」

（１）新たな博多工業高校の創造
　「専門学科を有する市立高校のあり方に関する有識者会議報告書」をもとに具体的方策を策定し、魅力ある博多工業高校づくりを進める。
（２）組織的学校運営
　各部・各教科等が連携することで、教職員のもっている力を結集し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたる。
（３）危機管理の徹底
　日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。
（４）業務の棚卸
　上記（１）から（３）を踏まえ、学校全体、部・学年・学科・教科・委員会、そして一人ひとりが業務を洗い出し、整理する。

評価（総合）

学校自己評価	学校関係者評価
B	B

昨年度の成果と課題	◎成果:①ICT活用について、年々使用率が上がっており、内容も充実してきている。②体育祭を初の屋内(PayPayドーム)で実施した。③支援が必要な生徒に対し、きめ細かな対応ができている。④教務内規・校則等時代に合った見直しを行った。 ◎課題:①学校改革に向けて、全職員の共通理解と意識の統一②全職員による継続した粘り強い指導③早期離職の防止④学校行事の実施に向けた創意工夫⑤校外の人権研修への参加者の増加⑥働き方改革に向けた対応

評価項目	目標及び具体的な方策等：目標	目標及び具体的な方策等：具体的方策	学校自己評価：目標	学校自己評価：具体的方策	学校自己評価：総合	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
教育課程・学習指導	可能性及び能力を最大限に伸長させる授業への取組み	ICTを活用した授業の拡充を行う。	B	B	B	ICTの活用は昨年に比べて増えているようである。授業の特性に合わせてICTと板書の使い分けた利用の工夫が見られる。 毎授業リフレクションを取り入れている科目では生徒自身の課題が明確になり、課題解決について考える時間を持てるようになっている。	B	・学力向上、専門知識や技術の習得を目指しての取り組みや学校努力が認められます。専門６学科の特色を発揮した工業高校として、また新時代に求められる工業高校の在り方の研究・追求が求められるところです。 ・授業規律が安全に繋がるとても大切な部分であると思います。工事現場や職場の「安全第一」という言葉に繋がる根本であるので、大切にして欲しいと思います。 ・進学する生徒さんも増えていますね。授業を受ける体制もよく、とても良い環境が出j来ていると思います。	ICTの活用については、研究を引き続き行う必要がある。また、すべての授業でICTを使わないといけないではなく、黒板との併用など有効な活用を考える必要がある。
		観点別評価を生かして、授業と評価の一体化をすすめる。	B						
	授業規律の向上	教室環境の整備および整理・整頓を徹底する。	B	B		授業規律はおおむね良好である。教室環境は整えられており、授業に集中できる環境が整備されている。チャイム席についても大半の生徒はしっかりと守ることができている。日ごろから担任および教科担当の指導ができていると考えられる。			授業規律については、守られ落ち着いた状況が見られるが、気を緩めればすぐに乱れてしまう恐れがある。引き続き共通認識を持ち取り組んでいく必要がある。
		チャイム席を守る。	B						
生徒指導	学校生活に応じた生活習慣・規範意識への意識向上	礼節を重んじた指導の徹底を行う。（より良い行動の積み重ね）	B	B	B	ほとんどの生徒が明るく元気に安全第一を意識した学校生活を送ることができており、各自が目標を達成できている姿が授業や学校行事などで展開された。指導に時間のかかる生徒も存在するが、全職員での細やかな指導により社会人としてふさわしい姿へと成長している。生徒指導は根気強く継続的に実施することが大事なので、引き続き学校全体で取り組んでいきたい。	B	・教科活動やHR活動、学校行事などの特別活動を通して有効な生徒指導が行われていると思います。情報社会におけるSNSをはじめネット利用で生じるトラブルや被害防止について如何に取り組むか（取り組んでいるか）の表記を望みます。 ・「体験入学等で先輩方の姿や優しさを感じて、博工に決めた」と生徒が言います。そして、その生徒が博工生となり、後輩たちの手本になれる生徒になって欲しいと思います。	近年、SNS関係のトラブルが増加している。SNSのトラブルは、見えにくい部分が多くあり、対応が非常に難しい。トラブルを小さい段階で、いかに解決するかが重要である。早い段階での、発見・解決に向けた取り組みを行えるよう努める。
		全職員、生徒会生活委員会による登下校指導（挨拶・身だしなみ・自転車マナー）と風紀検査での徹底指導を行う。	B						
進路指導	確かな進路実現（就職指導）	企業選択の幅を広げるため、求人事業所への積極的な訪問活動を行う。	B	C	C	売り手市場の継続や企業訪問・対応等により求人数は過去最高の3300人となった。１次合格率も約95%と多くの就職希望者が内定している。インターンシップは今年度も企業様のご協力を得て2年生全員参加することができた。さらに生徒が主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育を充実させたい。	B	・生徒の希望進路１００％達成をほぼ成し遂げており、行き届いた指導で専門高校としての役割を果たしています。福岡市役所合格が出たことは朗報です。更に、生徒の多様な希望にこたえる新規求人開拓へ力を注いでください。 ・ほぼ１００％の就職率、先生方と生徒たちの努力の賜であると思います。今のこの世の中、価値観の多様化から、不思議な生徒や素直でない生徒等、様々な生徒がいます。校長先生をはじめ、先生方のご苦労の結果であると感じています。	就職については、求人倍率が高い水準を保っている。この状況に甘えることなく、今だからできる求人企業の新規開拓に力を入れる必要がある。
		主体的に進路を選択できるように、インターンシップや進路LHR等のキャリア教育を通じて、職業観や勤労観を育む。	C						
	確かな進路実現（進学指導）	各学年で進学ガイダンスや面談を行い、進学意識・目的を明確に持たせる。	C	C		進学希望者の増加や総合型選抜等の多様な入試に対応できるように情報収集や研修に参加し、職員や生徒へ還元することができた。小論文・面接指導では多くの先生方にご協力いただき、進学希望者の98%が1回で合格している。しかし、出願方法も複雑化し、総合型選抜を希望する生徒も増えているので今後の指導体制を検討する必要がある。			進学を希望する生徒が増加しており、進学指導により力を入れる必要がある。工業系大学への進学・合格率を上げていきたい。
		推薦や総合型選抜に対応できるよう、情報収集や職員研修を行い、全職員で指導にあたる。	B						
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会が中心となり、生徒１人１人が主体性を持って学校行事等に取り組み活性化を図る。	B	B	B	学校行事等を通し、生徒会が中心となり各委員会と連携して全校生徒と共に主体性を持って取り組むことができたと思っている。部活動では強化指定部が中心となり、文化部・運動部共に学校活性化のために活動してくれた。コロナ以降、学校行事・部活動と落ち着いて来たので、諸活動を見直し、更なる活性化に向けて取り組んで行きたい。	B	・教員の働き方改革が進む中、放課後や休日に指導に当たられる顧問の先生方に感謝します。生徒の生徒会活動や部活動への参加は貴重な思い出体験です。各活動への参加者（加入者）増に努めてください。 ・生徒会や各委員会の生徒さんが、学校行事などを支えているようで、主体性があり、とても良いことです。部活動の活躍も期待しています。	学校行事については、生徒会を中心に生徒が主体的に取り組む体制が整ってきている。次の世代の生徒たちに、この流れを引き継ことが大切である。引き続き生徒会活動に力を注いでいく。
		各部活動生が目標を明確にし、主体的に取り組みができるような環境や場面を設定し、部活動の活性化を図る。	B						
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実のため学科横断的な取り組みを推進する。知的財産教育に関して計画的な取り組みを実施し、定着を図る。	B	B	B	外部や地域との連携事業は積極的に展開することができた。課題研究の横断的な取り組みに関しては、二学科にとどまっており、知的財産教育に関する取組みは計画的に実施することができた。競技会・コンテストにも積極的に参加し、優勝や入賞など多く果たし、成果が上がっている。	B	・６学科それぞれ学科特色を出した指導内容による取り組みがなされています。各学科において、学科の指導に対する満足度調査を実施し、その結果が知りたいところです。各種コンテスト参加や資格取得の結果を更に伸ばしてください。 ・普通は資格を取るには、お金と時間がかかります。しかし、高校に通いながら、先生方の指導を受け、資格が取得できることは、社会人からして考えられないことです。このありがたさを中学生にもしっかり伝えていこうと思います。今後も資格取得のための指導体制の充実をお願いいたします。	外部や地域との連携事業は良くできている。地域に情報を発信する良い機会と捉え、今後も地域との連携を強化していきたい。また、マイスター等の活用により、技術の向上を目指していく。
		ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。	A						
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。	B	B		ジュニアマイスター認定者が昨年度よりも増加し、技能検定を含む高難易度の資格取得が向上している。全校的な資格取得の取り組みが、本年度から廃止され、学科による朝補習を実施することとなった。この現状で、資格取得が停滞しないように、次年度以降資格取得のための指導体制を検討したい。			資格取得について、働き方を意識し、課外の補習をなくして、少し低迷気味であったが、新しいシステムに少しずつ慣れてきたようで、取得者の増加が見られた。今後も補習の方法等、検討していく必要がある。
		資格取得指導を充実させるための、新たな指導体制の確立を図り、教員の資格指導に関する資質・専門性の向上を図る。	C						
修学支援	進路保障における問題解決に努め、生徒一人一人の自己実現に対する支援を行う	生徒・保護者の要望を聞きつつ、支援が必要な生徒に対してきめ細やかな配慮を行う。	B	B	B	支援が必要な生徒に対し、ケース会議を開き教員間で役割分担を行いながら細かい配慮をすることができた。 各種奨学金の案内も速やかに発信し、相談体制もその都度充実させることができた。 生徒一人ひとりに寄り添う支援ができているが、今後も困難を抱える生徒のSOS発信を見逃さないようにしていきたい。	B	・支援対象生徒の増加や支援内容の多様化が推測され、支援方法や関わり方も研究や工夫が必要かと思います。担当者や担当分掌任せとならないよう認識を共有して全教職員による取り組み体制で臨んでください。 ・不況と物価高騰の中、生徒が経済的な理由で学業を諦めることのないように、サポート体制の充実をお願いいたします。公立高校としての使命であると思います。 ・支援が必要な生徒さんへのケアがとても細やかにされている様子が見れます。他校との交流も引き続きお願いします。	支援を要する生徒が、年々増加してきている。この対応には、学校全体で取り組む必要があることは、認識している。ただ、学校だけでは限界がある。行政機関への積極的な働きかけを、粘り強く行っていく。
		各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実し、周知と理解を広げる。	B						
	生徒の自己肯定感及び人権感覚を育む	校内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。	B	B		教員の人権に関する研修会への参加実績は昨年度と比べ上昇しており、研修意識の高まりが生徒への人権教育へと広がっていると感じる。 屋形原特別支援学校との交流学習への参加生徒も昨年を上回る参加人数となった。交流学習を通して参加生徒の人権意識の高まりを学習後の感想から読み取ることができた。			人として、人権感覚を身に付けることは非常に重要である。様々な機会を捉え、教員・生徒の人権感覚を磨く方法を模索していく。
		屋形原特別支援学校との交流学習を実施する。	A						

※　学校自己評価は，5段階評価（A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度）で成果や取り組み状況等について記入すること。
※　学校関係者評価は，学校自己評価について5段階評価（A～E）で評価すること。